

## 2015年度学院留学 研究成果概要

種 別：学院留学（短期）

所属・職・氏名：総合政策学部・教授・小池 洋次

研究課題：大統領任用及びマディアの変質に関する調査、研究

留学期間：2015年8月20日～2015年11月11日

留学先：国・都市 アメリカ・ワシントンDC

研究機関 ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題大学院（SAIS）

研究成果概要（日本語（全角）の場合は3,000字（A4、2ページ）程度）

短期であったが、いろいろな意味で収穫が多かった。以下、研究テーマに沿って報告する。

### 1. 大統領任用に関する調査と研究

アメリカの政策形成・決定過程の重要な特質は、大統領任用あるいは政治任用で政権入りする人々の活躍と、それによる政策のダイナミックな変更である。

今回の調査ではワシントンDCを拠点に文献調査やインタビュー調査を試みた。さらに、独自の調査を実施すべく、現地の調査会社と打ち合わせた。

要点を記せば以下のとおりである。

・この分野の専門家たちとの議論を通じて新しい知見と調査方法に関する示唆を得た。専門家たちとは、受け入れ機関、ジョーンズ・ホプキンス大学国際高等国際関係大学院（SAIS）のライシャワー・センター長、ケント・カルダー教授とラスト・デミング、ビル・ブロックの各教授である。彼らは、政府の要職を務めた経験があり、それだけに説明には説得力があった。

・米国特有の政治任用制度については様々な議論がある。政治・行政学者からはこれまでの研究や議論に関して押さえるべき事柄についてアドバイスを得た。特にジョージメイソン大学のジェームズ・フィフナー教授からは多くの情報提供を受けた。

・もと政府高官の中では、デービッド・ロスコフ氏（元商務省高官、現在、外交誌「フォーリン・ポリシー」編集長）とのミーティングは貴重であった。実際の経験を客観的に語ってくれたからである。

・米国型政治任用制度については一般の国民がどのように考えているかも重要な点である。それについて調査を準備すべく、バージニア州のイシュー・アンド・アンサーズ社を訪れ、担当者と打ち合わせた。将来、アンケートやインタビューのほか、フォーカス・グループ

を通じて独自の調査を行うつもりである。

・大統領任用に関しては、時期を特定し、文献を渉猟するとともにインタビュー調査を行うことも重要である。そこで、ビル・クリントン政権が誕生し、その後の経済再生等へのターニング・ポイントになった 1993 年において、政権内の被政治任用者の役割を、経済面ではロバート・ルービン元国家経済会議議長・財務長官に、また外交面では旧ソ連への政策を担当したストロブ・タルボット元旧ソ連家圏担当大使・国務副長官に、それぞれ焦点を合わせ、インタビューや文献を集め、考察を行った。

・この年にはアジア太平洋地域の貿易・投資自由化でも大きな進展があった。アジア太平洋経済協力会議（APEC）の首脳会合が開かれ、賢人会議は地域の自由化の積極推進を提唱した。今回の留学中に、賢人会議の議長、フレッド・バーグステン氏にインタビューし、当時の状況を確認するとともに、政策決定プロセスについて詳しく説明を受けることができた。

・アジア太平洋の自由化の問題では、ハワイの東西センター長、チャールズ・モリソン氏にも話を聞き、多くの示唆を得た。

## 2. メディアの変質

・マスメディアの課題は先進国共通である。新聞についていうと、購読収入と広告収入がネットの普及により大きなダメージを受け、経営悪化に悩まされている。こうした問題への解決策についてメディア各社は取り組んでおり、その最近の状況を探るのも今回の留学の目的であった。

・ワシントンDCでは、マスメディアを含めた「アイデア産業」に関するシンポジウムが開催され、留学者（小池）もパネリストとして参加し、マスメディアの課題を議論する機会を得た。参加者からは様々な示唆を受けたのが収穫である。DCでは、日本経済新聞社のワシントン支局を訪れ、支局員の方々と意見交換できた。

・ロンドンでは、日本経済新聞ヨーロッパ社長、滝山晋氏と懇談。最近のフィナンシャル・タイムズ買収について説明を受けた。

シンガポールでは、日本経済新聞シンガポール支局長、吉田渉記者らと意見交換。ロイター・トンプソンのミネルバ・ラウ氏、連合早報紙のヘン・キムソン氏らの意見も聞くことができた。

## 3. その他

・今回の留学では、国際関係大学院の教育レベルの高さを知ることができた。これも大きな成果である。大学や大学院が対外発信に努力していること、そしてそのやり方を工夫していることなども参考になった。

・重要なのは、今回の留学で多くのネットワークを築けたことである。受け入れ機関のS A I Sのカルダー教授や各研究者は今後も、本学にとって、様々な協力を期待できる方々である。

・英国のケンブリッジのカレッジ、クレア・ホールでは学長とも会うことができ、このネットワークは大いに生かすべきであると確信する。

・シンガポール連合早報のヘン・キムソン氏とは今後も情報交換しつつ、教育やコミュニケーションのレベルアップを話し合っゆきたい。

以上